

# 主 論 文 要 旨

報告番号	① 乙 第	号	氏 名	増田 佳正
主 論 文 題 名 : Adaptive Integrated Digital Architecture Framework with Risk Management for Global Enterprise (グローバル企業のためのリスク・マネジメントを考慮した適応型統合デジタル・アーキテクチャー・フレームワーク)				
(内容の要旨) グローバル企業では、新規技術の進展やグローバル化、新しいビジネスモデルといった様々な変化に直面している。最近のクラウドコンピューティングやモバイル IT での開発(ビッグデータ技術の進歩)と共に最先端の IT 技術の重要な変化が近年の新しい潮流として出現してきている。ここで、エンタープライズ・アーキテクチャーはデジタル変革において、クラウド・モバイル IT・デジタル IT に向けた主要な技術への挑戦を示すような中・大規模に統合された情報システムのデザインにも貢献でき、効果的である。 当論文では、クラウド/モバイル IT/デジタル IT を推進する企業体に適用できる「適応型統合デジタル・アーキテクチャー・フレームワーク - AIDAF」と関連モデルを提案し検証・実装する一方で、アーキテクチャー上の関連するリスクを低減し問題を解決するために、グローバル企業でのアーキテクチャー委員会にて導かれ合意された解決策を調査・研究することも目的としている。 当論文は、主に3つのパートに分けることができる。一つ目のパートは、第1章と第2章から成っている。これらの章は当論文で提案しているアーキテクチャー・フレームワーク - AIDAF への背景やモチベーション(動機付け)に焦点を当てている。また、当論文の2つ目のパートは第3章からなる。この章では、クラウド/モバイル IT/デジタル IT 時代のために EA フレームワークで必要な要素を提示し、AIDAF と名付けた新しいエンタープライズアーキテクチャー・フレームワークおよび関連するアーキテクチャー評価/リスク・マネジメントとデジタル・プラットフォーム上でのナレッジマネジメントのモデルを提案している。当論文の3つ目のパートでは、著者が提案するエンタープライズアーキテクチャー・フレームワークと関連する幾つかのアプローチ/モデルの適用および有効性について実証している。ここで3つのケーススタディが第4章、第5章および第6章にて提示され説明されている。さらに、第7章では AIDAF と関連モデルの横断的な評価および考察がなされており、ここでは効果やチャレンジ、主要成功要因についても記述している。最後に第8章では、結論および当博士研究からの重要なポイントが示されている。				

別表5  
(3)